

国連本部・カナダ視察 軍事力で制圧する政治を改めるべき



国連本部前の嶋山議員（ニューヨーク）

嶋山議員は17年度海外視察派遣団の一員として、昨年7月から8月にかけてニューヨークやカナダを視察。在ニューヨーク総領事館を表敬した際、アメリカの事情の説明を受けました。

トランプ政権の支持率は37%と下降しており、政策運営は不安定化している。また日本は中国に次ぎ2番目の貿易相手国となっている。国連の会議場も視察し、国連が世界平和と軍縮に果たす役割は大きく、世界が軍事力で制圧する政治を改めさせ、核廃絶、軍縮を求める役割を発揮することを痛感。沖縄の基地が人権、生命、環境を犠牲にしている今、国連の役割も期待したいものです。



県議会視察団一行（在ニューヨーク総領事館）

苦難を乗り越え、たくましく カナダ 活躍する県人会

バンクーバー県人会と交流

カナダのバンクーバーを訪れた嶋山議員は、バンクーバー沖縄県人会と交流しました。

夢を抱きカナダに渡った県人は、第二次大戦中、カナダ国民でありながら強制収容され、土地や住宅など、財産全てを没収されました。バンクーバーの自宅へ戻ることも許されず、ロッキー山脈の東側に移住を余儀なくされた歴史を学ばされました。その後、市民権の回復、個人保障が実施され、苦難の中、夢と希望を持ってたくましく生きてこれ、現在活躍を続けています。



苦難を乗り越え、たくましく活躍してきた県人会の皆さんと



那覇港管理組合議会 クルーズ船に体験乗船 バス拡充や高い満足度の提供で意見交換



体験乗船するクルーズ船をバックに、基隆港で。

クルーズ船の那覇港への寄港の増加によって沖縄観光、ひいては沖縄経済への大きな好影響が期待される中、嶋山議員を議長とする那覇港港湾管理組合議会は、昨年11月、台湾の高雄港TIPC（台湾港務株式会社）郭添貴会長と物流の意見交換を行いました。さらに嶋山議長ら管理組合議会議員、組合職員総勢17人が、大型クルーズ船（コスタ・フォーチュナ・10万トン）に体験乗船して、同船の総支配人とバスの拡充や、高い満足度の提供へ尽力することなど、貴重な意見交換を行いました。



コスタ・フォーチュナ号の総支配人と意見交換する嶋山議長ら管理組合議会のメンバー（船内）



体験乗船した船内にて撮影



リスボン（ポルトガル）市庁舎で、担当者から同市の事情説明を受けた。

県議会の「土木環境常任委員会」は、昨年10月30日から11月6日まで、スペイン・ポルトガルの交通、文化政策、都市整備などの視察をしました。外国の状況を見聞することで、沖縄の諸課題と議員の政策に資する目的を持っています。アントニオ・ガウディの未完の建物や国立自然史博物館なども見学しました。



フランシスコ・ザビエルが種子島に漂着した大航海時代のモニュメントの前で。

県議会 土木環境 常任委員会

スペイン、ポルトガルを視察
交通・文化政策、都市整備などを学ぶ

全日本海員組合、民間船員の戦没記録

「海なお深く」を知事へ寄贈



知事室にて

全日本海員組合の政治参与である崎山議員。このほど、去る大戦で民間船舶撃沈で5万人余の船員の戦没記録が書籍「海なお深く」として出版され、松浦副委員長らが来県、県民にも広く知って欲しいと、崎山議員の案内で知事へ寄贈しました。戦争当時徴用された船員は14、15歳の少年達が多く、その命が戦争で絶たれました。海員組合は、海の平和と安全を願う立場から発刊しています。



近況報告

学生と基地問題

まず沖縄の歴史や差別、抑圧を理解することから

介護形態が若者に移行している

高齢者介護の変容を学ぶ

高齢化社会は県にとっても重要課題。中央大学と那覇市職員退職者会は同大学の天田城介教授を招き「高齢者介護の変容を学ぶ」講演会を行いました。

教授は、介護形態が若者に移行しており、若者の失業・所得・安定雇用の問題解決が重要だ。40代の天田教授も祖母の介護を通して現在の職業選択になったと話していた。

崎山議員も約50人の参加者と共に、高齢者介護の現状を、県議会の議論に反映させると話した。

中央大学 学術講演会
現代日本社会における高齢者介護の変容

この30年で高齢者介護はどのように変わったか～

講師 天田城介（中央大学文学部教授） 司会 中川孝平 会場 那覇市職員厚生会館



講演会参加者のみなさん。那覇市職員厚生会館

去る8月、崎山議員と早稲田大学雄弁会、山中尚人君ら9人と沖縄の基地問題、日本の安全保障の意見交換をしました。学生らは沖縄への米軍基地の集中、事件、事故等には激しい怒りを持っていました。しかし様に基地の全面撤去の意見はありませんでした。

崎山議員は基地被害と事件事故の実態、差別と抑圧にあえぐ県民の現状を、まず理解することから論議したら、日本の安全保障はわかりやすいのではないかと述べました。

去る大戦で悲惨な体験をした県民は、憲法9条の形骸化、改憲に不安と反対の気持ちが根強い。安全保障のために基地を認め、軍事力に頼る考え方は誤りではないか、と力説しました。



県議会会派室にて



かけはし

沖縄県議会活動だより

2018/3 NO.118

※このチラシは沖縄県議会基本条例に基づく議員広報紙です。



安全な街へ一步、蔵小舎の小学校区防犯灯実現

39 基設置

地域の安全を県議会で提言している崎
山県議は、与儀タンク跡地（与儀、古波
蔵、国場）に防犯灯を設置して地域を明
るくし、安全な街づくりを進めていま
す。2015年点灯式を瑞慶覧尚（ピザ
屋）さん店舗前で行い、現在2018年ま
でに39基設置されます。同跡地に住む
市役所職員の平良昌史さんが積極的に取
り組み、現在に至っています。防犯灯を
設置する会は、電気料金一部負担をする
ため会員を募り、年会費（個人2,000
円、団体3,000円）を徴収しています。崎
山議員は、地域の安全、安心を築くため
には防犯活動は重要だと考えています。
県議会の場で、明るい街づくりを提言し
ています。

照らしたいもの



行政サービスが行き届きにくいという。地域住民の瑞慶覧尚さん、平良昌史さんと「設置する友の会」を立ち上げ、設置を進めてきた。2017年度中には累計で39基設置する予定だ。「近くに古蔵小もあり、明るい場所が増えることは安全、安心につながる」。地域を「照らす、活動を今後も続ける構えだ」。

琉球新報 2018年2月10日掲載

39基の設置場所



臨港道路（浦添北道路）が開通

那覇港や空港へのアクセス向上、国道58号線の渋滞緩和に期待

浦添市の西海岸に整備が進められていた臨港道路（浦添北道路）が3月18日に開通しました。同道路の開通は県経済、観光振興への波及とともに、具体的な効果として、那覇港や那覇空港へのアクセス向上、国道58号線の渋滞緩和、物流機能の円滑化など、県民の大きな期待が込められています。

崎山議員是那覇港管理組合議会の議長として開通式典に招かれ、関係者と開通を祝うと共に、県民生活への様々な効果が予想されるだけに、道路完成へ尽力してきた思いを新たにしています。



開通式典に招かれ、祝いのくす玉割りを行う崎山議員（矢印）

崎山議員 那覇港管理組合議会議長として尽力



那覇港のクルーズ船バース。年々寄港回数が増加している。

臨港道路の開通は、那覇港と中部圏への生活物資など、円滑・迅速な物流機能強化、また年々寄港回数が増加する那覇港へのクルーズ船客の利便性の向上へ効果大だ。



開通した道路を宜野湾市从那覇方面を臨む。（県バンプより）

電算システム受注方式の改善を 沖縄IT企業優先で

3月議会

崎山議員は土木環境委員会で、県営住宅131戸17,500世帯を管理する、電算システムの受注方式の改善を求めました。

これは応募資格の中に、自治体の受注10件以上の実績は、県内IT企業に厳しく、本土大手企業の独占にしかないと疑問を投げかけました。県は今後IT関連企業も県内企業優先の方針に拡大していく事を検討し、応募資格を改善していくとしています。

住民要求に沿う提言を次々と

予算特別委員に選任



予算委員会で審議する崎山議員

2018年度県議会定例会は2月7日～3月28日まで行われ、同議会において崎山議員は、沖縄県の予算を総合的に検討し、予算審査や提言を行う予算特別委員に選任されました。

委員会の審議では、県民の暮らしに直結する課題について、住民要求に沿って予算に反映させることを次々と提言。自ら精力的に現地調査を行うなど、予算特別委員会の議論を活発化させています。

県政の防犯・安全への取り組みの一環

防犯・安全への取り組みは県政としても地域環境改善の第一の課題。崎山議員が3年前から取り組んでいる与儀ガソリンタンク跡地一帯の住宅地への防犯灯の設置活動。粘り強い取り組みで、着々と設置が実現し、今後も積極的に活動を続けるとしています。



照らしたいもの



記者席

○…自身が住む、那覇市の「与儀タンク跡」地域に防犯灯を設置する活動を続けている崎山嗣幸県議（社民・社大・結）。国場、与儀、古波蔵の3地区が混在し、行政サービスが行き届きにくいという。地域住民の瑞慶覧尚さん、平良昌史さんと「設置する友の会」を立ち上げ、設置を進めてきた。2017年度中には累計で39基設置する予定だ。「近くに古蔵小もあり、明るい場所が増えることは安全、安心につながる」。地域を「照らす」。活動を今後も続ける構えだ。

古蔵小校区に防犯灯設置進む
粘り強い活動に成果着々

県管理用地の伐採、予算化

国場地域にある県管理用地の草木が繁茂し、同地域に住む嘉数良雄、金城栄子さん宅周辺に「ヤスデ」が大量発生。崎山議員は予算特別委員会で、県から新年度早々に、永山防災課長に伐採を約束させました。



近況報告

泊セリ市場視察



泊セリ市場の説明を受ける崎山議員ら。

崎山議員は、赤嶺副議長や、上原県議、中村県議らと、泊セリ市場を視察。県漁連の島田考査役らから現状説明を受けました。泊漁港は、マグロ漁や一本釣り漁船の拠点港として賑わい、生鮮魚介類の安定的供給の拠点の役割が求められています。

一方、市場開設から40年が経ち、施設の老朽化と狭隘化で、衛生面や利便性などの問題が山積。県の方針に基づき、高度安全衛生施設整備の必要性を痛感したようです。

高度安全衛生施設整備の整備を



県議会議長室にて

久米島の振興を要請

久米島町長（大田治雄氏）らと崎山議員は、現在久米島町の抱える諸課題（久米島空港運賃の低減や「フェリーくめじま」代替船として高速船の導入など）を、新里米吉県議会議長へ要請しました。

漁業信用基金協会の体制強化を



副知事室にて

県漁連会長が浦崎副知事へ要請

崎山議員は上原竜一県漁連会長とともに、新鮮な海産物を供給する漁業者への財政基盤確立のため、漁業信用基金協会の体制強化を要請しました。浦崎副知事は漁業者への理解が深く、即断で2018年に体制強化実現を約束しました。

船員確保で海運・水産業の育成を

去る1月、全日本海員組合の大崎沖縄支部長らと崎山議員（海員組合政治参与を務める）は、沖縄の海上輸送と水産業の発展のため、船員確保の要請を県の川満企画部長へ行いました。



要請する海員組合大崎支部長（中央右）



平和な沖縄、県経済活性化と県民生活向上に取り組むよう要望書を提出した。(2018/12)

2019年度
予算要望書
を提出

知事を支え、平和な沖縄、
経済振興、県民生活向上を

社民・社大
結連合

崎山県議、玉城県政にエール

2019年度の概算要求時期も迫る中、崎山議員の属する「社民・社大・結連合」会派は、玉城知事に予算に関する要望書を提出しました。

主な内容は、辺野古新基地反対の闘い、アジア戦略構想の推進、離島振興、子育て支援と子どもの貧困対策、先端医療推進など多岐にわたり、県経済振興や県民生活向上を重点的に取り組むよう要望しています。

いま県の経済政策は、特に入域観光客が958万人、観光収入が6603億

円、クルーズ船寄港も515回と大きな伸びを示しています。完全失業率も6.8%から3.8%へと3%改善。有効求人倍率も0.4倍から1.11倍へと伸び、農業生産出荷額の伸び率も全国一。子どもの貧困対策でも30億円の基金創設し、県政の柱に位置づけ高く評価されています。

こうした中、会派の2019年度予算要望に知事も、要望はほぼ自分の公約であり、会派の要望を前向きに受け止め、実現に取り組む事を約束しました。

クルーズ船第2バース 建設で知事と意見交換

那覇港管理組合議会の議長を務めている崎山議員は、玉城知事の就任後すぐに、那覇港の施設充実と活性化のため知事と面談。特に年々増加する大型クルーズ船寄港に対応する大規模な第2バース（岸壁）建設めざし、国への強力な補助要請などに取り組む事を確認しました。



知事と面談、大型クルー船が接岸できる大規模施設建設で意見交換した。(2018/11)



国も裁判所も無視できない圧倒的な民意を

辺野古県民投票 2/24 を成功させよう。

崎山議員、学習会を開催



県民投票の意義を理解するため、学習会には多数の支援者が参加した。(県議会会議室)

学習会に県民投票の会の元山仁士郎代表を招いた。



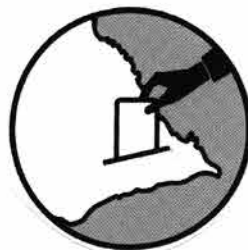
県民運動で支えよう玉城県政

2019年が明け、いよいよ「辺野古新基地建設への意思表示を行う」県民投票が来月に迫ってきました。最大の意義は、新基地反対の民意を、国も裁判所も否定できないほどの圧倒的な意思を示し、新基地工事を止める事です。

一部の市町村長、議会の反対もありますが、地方自治法に基づく県民投票条例を拒否する

ことは、有権者の投票権の剥奪です。崎山議員は支援者との学習会を企画するなど、積極的な活動を展開してきました。

玉城県政と県民運動をしっかりと結びつけて、新基地建設を断念させるまで闘い抜きましょう。



『全学徒の碑』補足版設置

問題提起した崎山議員の努力実る

元全学徒の会の宮城政一郎さんらが、崎山議員に要請していた、糸満市摩文仁の「全学徒の碑」に犠牲者数を刻銘する課題が、実現する運びとなりました。

崎山議員の義姉(トミ子の兄も)県立2中2年生の時、鉄血勤皇隊に動員され摩文仁で亡くなっており、住民を巻き込み熾烈を極めた沖縄戦は、師範学校、高等女学校、実業高校など21校の14歳~19歳までの若い命1,938名をも奪いました。何の法的根拠もなく学徒を戦場に送り、犠牲を強いた国の責任は計り知れません。

議会で取り上げ、要請が叶った崎山議員の努力に感謝するため、元昭和高等女学校の吉川初枝さん(90歳)と上原はつ子さん(89歳)が、県議会を訪れました。県は8月完成を目途としており、今後は補足版の内容などを注視していきたいとしています。



吉川さんと上原さんからお礼を受ける崎山議員。

記者のメモ

学徒隊を悼み非戦誓う



○「沖縄戦で動員されなくなった学徒隊名などが刻まれた『全学徒の碑』に犠牲者数を記載することが決まり、感謝する崎山副議長(社民)・大結那覇市・南部離島区・平和ガイドを務める義姉が鉄血勤皇隊で動員された兄を亡くしており「生きた証し」として犠牲者数の記載を求めている。6月定例会の代表質問で県に対応を求めたが「学徒隊の正確な戦没者数を示す資料がない」と後ろ向きだった。「記載を求めてきた元全学徒の会の熱意が県を動かした」と喜び、非戦の誓いを新たにしたい。



大きく伸びゆく沖縄のクルーズ観光

沖縄の課題は何か、崎山議員米国マイアミを視察

沖縄県は「東洋のカリブ海」構想を掲げています。特にクルーズ船寄港回数は大きく伸び、クルーズ観光新時代への、沖縄県の受け入れ体制の強化が急がれています。

このような現状を踏まえ、崎山議員が議長を務める那覇港管理組合議会は、議員・職員13名で米国マイアミを視察、クルーズ本社を訪れ意見交換を行いました。

意見交換では沖縄への誘客、那覇港バースの整備、税関手続きなど様々な課題や問題点が出され、今後はこれらを県としてどのように克服、強化していくかが求められます。

マイアミのクルーズ船バース



アジアへ押し寄せるクルーズ市場

沖縄への寄港回数、18年は662回を見込む

アジアのクルーズ市場は欧州に次いで世界第4位にまで成長し、今後も拡大を続け、カリブ海や地中海クルーズ市場が20年かけて成長してきた道筋が、アジア市場でも短期間で押し寄せるものと予想されています。那覇港においても2017年の寄港回数は224回、県内全体では515回で、2018年はさらに伸びる勢いで、29%増の662回を見込んでいます。



クルーズ本社にて記念品を交換する崎山議員

那覇市近海への相次ぐ米軍戦闘機墜落 崎山議員らが沖縄防衛局へ抗議



相次いだ米軍戦闘機の墜落に危険極まりないと防衛局(右)へ抗議する崎山議員ら会派のメンバー(左)

2018年6月に米軍のF15戦闘機が那覇市の南の海上に墜落し、また11月にはF/A18戦闘攻撃機が那覇市の海上280キロに墜落しました。現場海域は、漁船・航行する船舶の多い海域で、一步間違えば大惨事となる危険極まりない事故です。崎山議員ら県議会の社民・社大・結連合会派は、米軍へ弱腰の日本政府の出先沖縄防衛局へ、激しい怒りを込めた抗議を行いました。政府は、事故の度に相変わらず「安全管理の徹底と情報提供、再発防止」繰り返すだけで、崎山議員は「防衛局は、県民でなくどこを向いて仕事しているのか」と、怒りを通り越して、うんざりしたようでした。

福島瑞穂参院議員が来沖縄 副知事と面談

崎山議員が同行

参議院議員の福島瑞穂さんが、このほど沖縄を訪れ、崎山議員の案内で富川副知事と面談しました。副知事と福島議員、崎山議員は、米軍基地の実態や沖縄経済戦略構想などを意見交換。福島参議員も沖縄発展へ尽力すると話していました。



基地の実態や沖縄経済の発展をめざし、力を尽くすと話していた。

野党顔負け



記者席

〇…来年2月に首里城正殿や沖縄美ら海水族館が県に移管されることを注目する崎山嗣幸県議（社民・社大・結）。収支の見通しで不透明な部分があり「県民の財政負担があつてはならない」と心配し「県民への利益が大前提だ」と語る。特に約181万人の来場者数を誇る首里城へのこだわりは人一倍強く、県に対し「首里城単独で収益を伸ばす仕組みにしなければならない。まずはきちっとした試算を出す必要がある」と注文。野党顔負けの論陣を張る。

有料施設を管理・運営

移管後も施設の所有権は国が持ちますが、県が国に土地と施設の使用料を払った上で、首里城正殿や水族館の有料施設を管理・運営するということです。

沖縄を代表する人気観光施設である首里城と美ら海水族館を県が主体的に管理することで、県は観光、文化振興に関連付けた活用を展開する考えです。

首里城 美ら海水族館



県民のより良い利活用と 歴史的・文化的価値の向上を



県民への利益が大前提

沖縄の主要な観光施設

崎山議員がかねてから議会の質問などで、県への移管を求めていた、沖縄の主要な観光施設、首里城と美ら海水族館が、来る2月にも移管が実現する事になり、いま国と県が具体的作業に入っています。

首里城入域観光客は181万人、美ら海水族館は378万人と沖縄観光の目玉となっており、現在国の管理となっています。これらの施設は、県移管によって、より良い観光収入の利活用とともに、さらに歴史的・文化的価値の向上が図れないか、大きな期待が寄せられています。

横浜港

帆船での船員訓練を見学



帆船日本丸で船員養成訓練を見学した。

昨年4月に、崎山議員は客船寄港回数日本一を誇る横浜港を視察。同港は物流・生産機能や、観光文化機能を有し、個性的デザインと斬新な構造の、日本の代表的客船ターミナルとなっています。那覇港のこれからの整備、発展に多くの手がかりを与えてくれるものです。

視察した崎山議員は、国指定重要文化財の帆船日本丸で船員養成する訓練を見学しました。

視察報告

北海道

防災施設で震度7を体験



防災体験施設で震度7の揺れを体験した。

社民・社大・結連合会派は昨年7月に北海道を視察。衛生管理型施設のウトロ漁港、延期となっている沖縄の山原・西表の世界自然遺産登録に向けて、オホーツク海と知床沿岸の生態系などを視察しました。

また親子での絵本読み聞かせ施設「札幌えほん図書館」、防災学習体験施設の「千歳市そなえーる」等を学習視察しました。特に模擬体験施設では、震度7の激しい揺れに全員が驚いていました。

札幌えほん図書館などの児童施設も充実していた。



「少年よ大志を抱け」で有名な北海道開拓の父「クラーク博士像」の前で



沖縄県
議会議員

サキ山副幸議会活動NEWS

かけはし



いのち、くらし最優先

2019/3 NO.122

民意
力強く

辺野古埋立県民投票 反対71.7%

結果無視の政府、民主主義を否定

2月定例
県議会

崎山議員は県民投票、消費増税、沖縄戦、非常勤等の課題で一般質問に立ちました。



一般質問を行う崎山議員

2月24日投開票された県民投票の結果は埋立反対が43万4千票余、71.7%の高得票を獲得、県民の新基地反対への民意が力強く示されました。

今議会で崎山議員は投票結果を踏まえ、その意義や今後の県政について知事に質問。知事は「十分な民意が示されたと思うし、結果を日米両政府へ通知する」とのべ、「強行されている新基地建設埋立の中止をさらに強力に求めていく」と決意を述べました。

政府は県民投票の結果に関わらず埋立続行を決めていたとし、民意を無視、民主主義を否定しています。



日米両政府へ、さらに強く中止を求めていく、と玉城知事

臨時
非常勤職員

一時金等の支給へ

法改正に基づき、早期実現を

崎山議員は、県庁で働く6,866人の臨時非常勤職員の一時金支給について質問。これらの職員は地方行政の担い手であり、地方公務員法や地方自治法が改正されたことで、会計年度任用職員へ移行し、任用・勤務条件を適正に確保する必要があります。

全ての移行ではないが、特に一般非常勤職員については早期の待遇改善が必要です。これに対し、県は実施時期を2020年4月を目途としています。

新基地建設は破綻

大浦湾に軟弱地盤、無謀な工事



県民投票を呼びかける崎山議員

安倍首相はついに大浦湾の軟弱地盤を認めました。その対策は海面下90㍍に76、699本の砂杭（東京ドーム5個分）打ち込み、工期も13年以上延び、費用も膨大になります。国内に作業船はなく、環境保全の上からも、まれに見る無謀な工事となります。

県民の意思を踏みにじったうえに、ここまでして基地の建設を強行する国の姿勢は県民の怒りに火を注ぐものです。